

当院における透析液清浄化と水質管理の現状報告

上尾中央腎クリニック 透析技術科

○高橋 正樹、坂井 翔太、村山 真大、長谷部 芙美恵、太田 恵、島崎 沙由香、佐藤 典明、
遠藤 清文、吉江祐

[目的]

当院は開院以来 On-Line HDF を中心に治療を行っており、透析液清浄化と水質管理に努めている。近年、透析液清浄化ガイドラインの提示や2010年の診療報酬改定による透析液水質確保加算の新設もあり、透析液清浄化の必要性は広く認識されている。今回当院で行っている透析液清浄化管理としてエンドトキシン（ET）測定値、生菌培養、透析監視装置各部材の劣化状況を踏まえて現状を報告する。

[方法]

当院の透析液清浄化システムとして、JWS社製逆浸透水処理装置 MIZ752 - H、日機装社製透析液溶解装置 DAD-50、日機装社製透析液供給装置 DAB-E（DAB-E）、日機装社製再循環装置を設置しており、DAB-E までの配管に PVDF を、透析監視装置 DCG-03（DCG-03）までの配管には KC ホースを使用している。透析液供給ラインの洗浄にはアムテック社製過酢酸系除菌洗浄剤 Sanacide、塩素系除菌洗浄剤 ECO-200 を隔日で使用している。

RO タンク洗浄を月1回 ECO-200 による消毒運転を行っている。

水質管理において、ET 値測定を週2回、生菌培養測定を隔週にて検査。また、部材劣化状況は DCG-03 の各選定部材を3ヶ月、6ヶ月使用後に分け観察した。

[結果]

評価期間内において部材の劣化状況に大きなものはなく、ET 値は検出感度以下、生菌培養検査は低値を維持し、水質管理基準を満たしている。

[考察]

結果より、当院の清浄化システム及び水質管理によって、高い水質基準を維持できているといえる。今後、安全性を更に高める為にカプラ内の生菌測定、部材の交換時期の検討も視野に入れ、長期的な経過を観察する必要があると考える。